報道機関の皆さんへお知らせ

報道発表資料の配付日時　5 月 30 日（金）15 時 00 分

標　　題	日本海スルメイカ北上期調査結果について
日　　時	―
場　　所	―
内　　容	1　経過 　道南海域でのスルメイカ漁は 6 月 2 日に解禁となり、例年漁期開始直後は松前沖周辺の日本海が主な漁場となる。函館水試ではこの時期に調査船金星丸によるスルメイカ調査を行っており、結果を「浮魚ニュース」として公表している。 2　今回のお知らせ 　5 月 20 日～25 日に津軽海峡周辺～秋田県沖で行った試験調査船金星丸によるスルメイカ漁獲調査の結果（要約）は次の通りでした。 ・スルメイカの分布は非常に低密度で、全漁獲調査点の平均 CPUE（イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数）は昨年と同程度であり、過去 5 年平均を下回った。 ・体サイズは昨年、過去 5 年平均と比べ小型であった。 　なお、今回の調査結果は「浮魚ニュース」として道総研のホームページにも掲載しています。 【https://www.hro.or.jp/fisheries/research/kushiro/topics/ukiuo_news.html】
取材に当たってのお願い	
他のクラブとの関係	
連　絡　先	函館水産試験場　調査研究部 研究職員　富山　嶺　　TEL　0138-83-2893

配布形式　電子☑･紙☐　　渡島総合振興局　　ＨＰ掲載　有☑･無☐

北海道浮魚ニュース

令和 7(2025)年度 3 号
2025 年 5 月 30 日
道総研 函館水産試験場
ホームページ
https://www.hro.or.jp/fisheries/research/kushiro/topics/ukiuo_news.html

◎日本海スルメイカ北上期調査

5 月 20～25 日の期間、津軽海峡周辺から秋田県沖にかけての日本海で、函館水産試験場調査船金星丸（151 トン、2 連式イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備）により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

・ スルメイカの分布密度は低く、全漁獲調査点の平均 CPUE は昨年と同程度で過去 5 年平均を下回った
・ 体サイズは昨年および過去 5 年平均と比べて小さかった

1．水温分布（図 1）

漁獲調査を実施した 5 地点の表面水温は 12.8～14.9℃（昨年 13.4～14.3℃）、深度 50m の水温は 8.0～12.8℃（昨年 11.0～11.7℃）の範囲にありました。スルメイカの分布の目安となる深度 50m で 10℃以上の水温帯は、東経 139 度以東の沿岸部で広く分布していました。

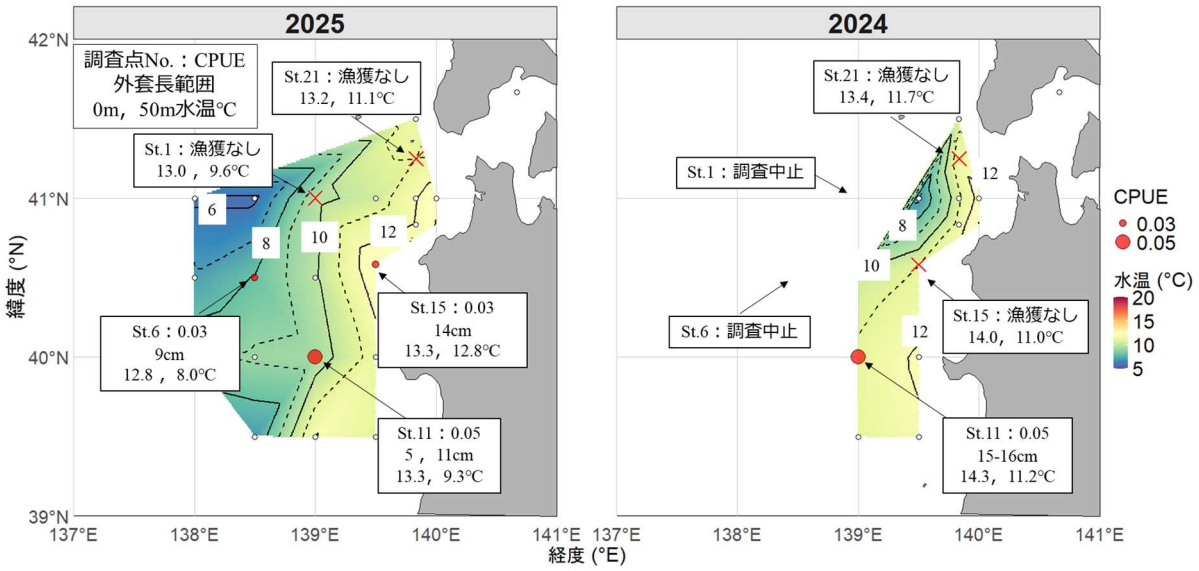

図1　スルメイカの漁獲調査結果と深度50mの等温線図（左：2025年、右：2024年）
矢印は漁獲調査点を、●はCPUEを、×は漁獲がなかった調査点を、
○は海洋観測のみの調査点を示す

２．流向流速分布（図 2）

航行中の ADCP 観測により得られた深度 50m における流向流速を図 2 に示します。対馬暖流は 50m深の水温 10℃の等温線に沿って北上していました。道総研では北海道周辺海域で、2ヶ月ごとに 3 隻の調査船を用いて定期海洋観測を行い、海況速報を発信しています。以下の URL にて公開していますので、こちらもご参照下さい。
https://www.hro.or.jp/fisheries/research/central/section/kankyou/sokuhou.html

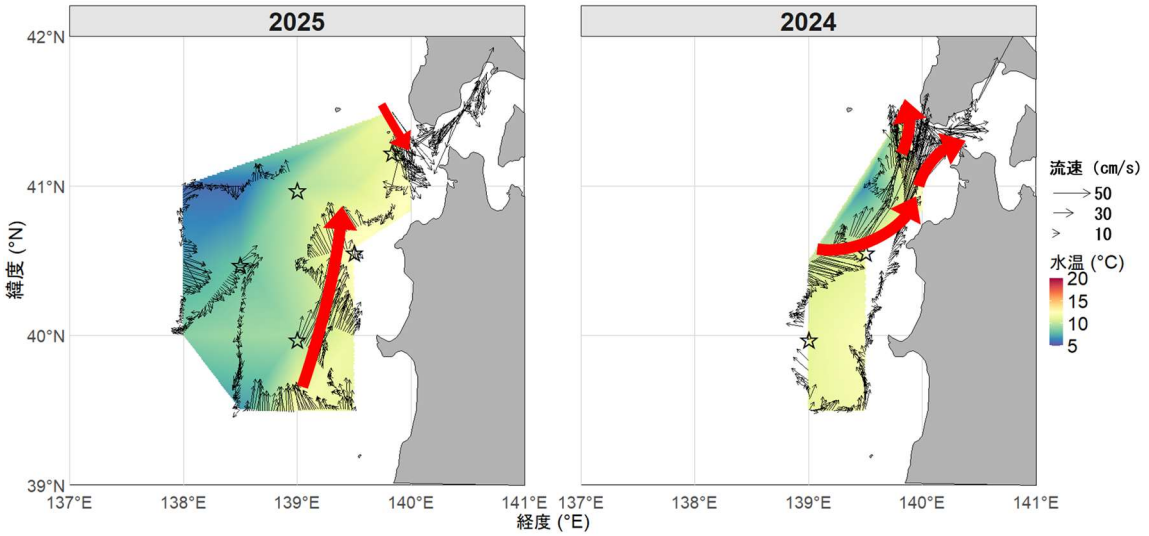

図 2　2025 年（左）と 2024 年（右）の深度 50m の流向流速と水温分布図
赤い矢印は対馬暖流と津軽暖流の模式図を、☆は漁獲調査点を示す

３．スルメイカ分布密度（図 1、図 3）

漁獲調査点では、2 連式イカ釣機 5 台を用いて日没後に 5 時間以上漁獲調査を実施しました。調査を実施した 5 地点の CPUE（イカ釣機 1 台 1 時間当たり漁獲尾数）は 0～0.05（昨年 0～0.05）の範囲にありました。CPUE が最も高かったのは男鹿半島沖の St.11 で CPUE は 0.05（昨年 0.05）でした。また、St.21 を除く漁獲調査点でイカ釣りでは採集しにくい小型のスルメイカをたも網で採集したところ、主に 10cm 以下の小型のスルメイカが確認されました。

漁獲調査を行った 5 地点の平均 CPUE は 0.02 で、昨年（0.02）と同じであり、過去 5 年平均（0.77）を大きく下回り、2001 年以降では低い水準にあります。

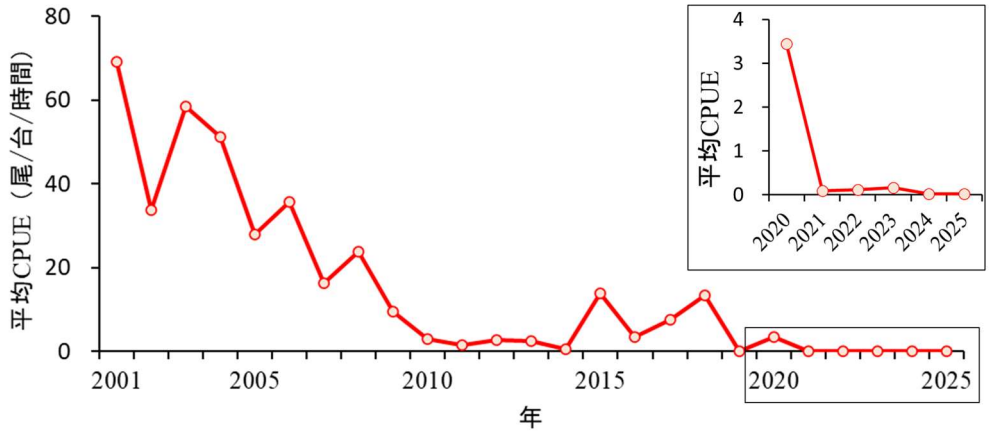

図 3　漁獲調査を実施した各地点の平均 CPUE の経年変化

４．スルメイカの大きさ（図 4）

漁獲調査で採集されたスルメイカの外套長の範囲は 5～14cm（昨年 15～16cm）でした。近年は漁獲尾数が少なく（今年 4 尾、昨年 2 尾）、単純な比較は難しいものの、本調査で採集されたスルメイカは昨年および過去 5 年平均と比べて小型でした。また、漁獲調査点でたも網を用いて採集されたスルメイカの外套長の範囲は 3～15cm でした。

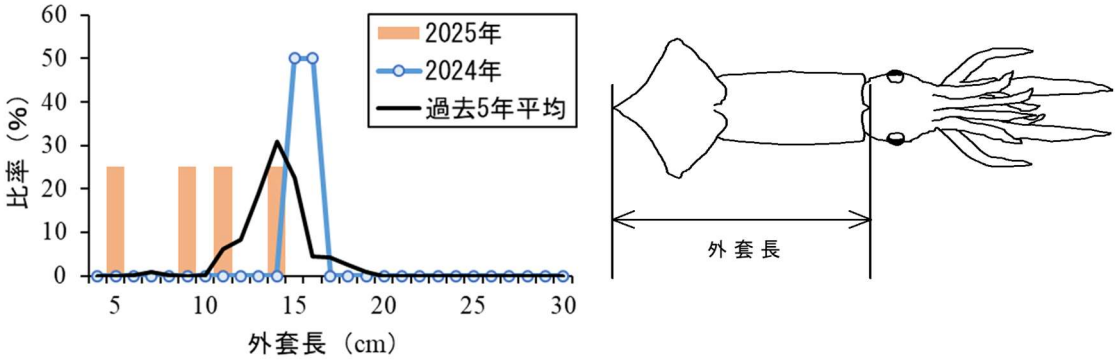

図 4　調査海域全体の外套長組成

※本調査の一部は水産資源調査・評価推進等委託事業により実施しました。

◎4 月までの本州日本海におけるスルメイカの調査結果と漁況

国立研究開発法人水産研究・教育機構より、4 月までの本州日本海におけるスルメイカの調査結果と日本海沿岸域の漁況についての情報提供がありましたので、概要をお知らせします。

- **2024 年 10 月に実施したスルメイカ稚仔調査では、スルメイカ幼生の平均分布密度は 2023 年および過去 5 年（2019 年～2023 年）平均を下回った**
- **2025 年 1 月～3 月の小型いか釣り漁業等によるスルメイカ（生鮮）の漁獲量は、日本海沿岸域全体で、前年並で過去 5 年（2020 年～2024 年）平均を下回った**

詳細は以下の水産研究・教育機構のホームページからご覧になれます。
https://www.fra.go.jp/shigen/fisheries_resources/forecast/surume.html

金星丸 海洋観測速報　https://hro-fish.net/kinsei/
（函館水産試験場試験調査船金星丸の海洋観測結果がご覧になれます。）

お問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部，TEL: 0138-83-2893
FAX: 0138-83-2849

地方独立行政法人
北海道立総合研究機構